

2009 年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価（以下、自己点検・評価）を実施する制度を構築しております。

2009 年度は、それぞれの学校が共通の評価項目として「教育課程・学習指導」「生徒指導」「安全管理」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」を選び、さらに中学部は独自項目に「キリスト教主義教育の実践」「特色ある教育の実践」を加えて実施しました。実施にあたっては、それぞれの評価項目について生徒・保護者・教員のご意見を伺うためにアンケートを行い、客観性も確保しました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計し、分析したものを参考に、自己点検・評価結果をまとめ、関西学院評価推進委員会（2010 年 3 月 26 日）において承認されましたので WEB サイト上で公表いたします。

関西学院中学部は自己点検・評価を通じて自らその課題を探り、その課題に誠実に向き合って改善することによって質の高い教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

次頁以降に 2009 年度中学部自己点検・評価結果を項目別にまとめたものを記しました。

なお上述の 7 つの評価項目以外に、学校全般に関して総論的に尋ねるために、生徒と保護者に対して、学校に行くのが楽しいか（楽しそうか）、また、中学部の教育に全体的に満足しているか、という 2 つの質問項目を加えました。その結果、生徒・保護者両者から、学校生活全般に関して満足度が高いことが分かりました。ただし、この結果に満足せず、各論部分での改善に努めていく所存です。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

2010 年 3 月 26 日

関西学院中学部
部長 安田 栄三

【教育課程・学習指導】

現状の説明

2012年度からのカリキュラム改訂に向け、教員間で教育課程についての審議を重ねてきており、必修教科に関しては大枠が定まった。その中で各教科の特性や補習指導のあり方、また外部試験導入の可能性などについても議論が及んでいる。

補習は、数学・英語を中心に教科担当教員の裁量に任されているのが現状であるが、教員間でも十分ではないとの認識がある。外部試験については、英語科が年に一度、GTEC(英語コミュニケーション能力を測定するテスト)を行い、客観的な評価を生徒に還元している。

高等部とは共学化に向け、教育課程・行事などについての話し合いと連携が始まっている。

評価・分析(アンケート結果を含む)

生徒・保護者ともに、学校生活全般への満足度は高い。アンケートの結果では、カリキュラムに関しては「学校が提供しているカリキュラム(選択授業含む)は適切である」という問いに、91%が肯定的な回答をするなど、保護者が概ね適切であると判断しているのに対し、生徒からは、授業への工夫や土曜講座についてやや低い評価が出た。

また、自分の学力が伸びているか、学校は学力を伸ばしてくれているかを問う質問では、肯定的な回答が、生徒は56%、保護者は73%と共にやや低かった。教員による授業の効果についての精査と、生徒に学力がついていることを実感させるための工夫が求められる。

また、補習に対する要望も強い。高等部に関する情報が不足しているとの保護者の声があるが、これは高校教育、高等部の情報提供の不十分さによるものと思われる。

改善の具体的方策

生徒に対して学習活動の目標設定をもっと明確に示す必要がある。

学力評価に関しては、英語以外の教科にも外部試験導入を視野に入れつつ客観的な評価法を確立することが望まれる。今後、数学・英語を中心として補習指導の体制を制度的、組織的に構築していくことを検討する。

生徒・保護者に対し、進路指導等の機会を増やし、積極的に高等部、高等学校に関する情報を提供していく。高等部とは、組織的な連携はもとより、教科間でも十分な情報交換を行い、一貫教育を推進する。

【生徒指導】

現状の説明

挨拶や時間厳守など、基本的な生活マナーについては重点的に指導している。美化については、クラス内当番制によりホームルーム教室とその周辺を日々清掃し、3学期末には大掃除を実施しているほか、「地域奉仕活動」と称して近隣地域の清掃活動を定期的に行っている。また、生徒会活動を中心に自主自律精神の育成を目指している。さらに、生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切」を念頭に、当該学年担任団と生徒指導部が密に連携しながら対応している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

基本的な社会マナーについて、教職員のアンケートでは「挨拶や時間厳守などの基本的な社会マナーを身につけさせている」の問いに100%肯定的回答だったのに対し、「整理整頓や環境美化に努めさせている」の問いでは肯定的回答が84%に留まり、挨拶や時間厳守などの面での評価の高さに比して、美化・整理整頓の面が不十分という評価が出た。男子校特有の結果と解釈されるが、見過ごさずに対処していくべき問題である。

自主自律の精神の育成について、「自分たちの手でホームルーム、生徒会、自治活動を行っている」という項目に、生徒からの評価がやや低く出た(肯定的回答が64%)のは、生徒が自ら考えて行動している実感を得ていないためと考えられる。

また、生徒の問題行動への対応について、生徒・保護者による評価(肯定的回答が生徒・保護者とも76%)が教員による評価(4つの関連する設問の肯定的回答がそれぞれ88%、88%、96%、92%)より低く出た。それは、教員が生徒集団全体の中で問題を捉え易いのに対し、生徒・保護者は他者の情報を得にくい分、個人レベルでの評価をせざるを得ないということと、教員が捉え切れていない事柄があると解釈できる。

改善の具体的方策

自主自律の精神育成には、HRや生徒会活動を通して、生徒自らが考え、行動できるような取り組みをおこなっていく。

問題行動への対応については、教員が生徒・保護者と今以上に緊密なコミュニケーションをとることによって両者の認識ギャップを少なくしていく。

【安全管理】

現状の説明

震災・火災、新型ウイルスによる感染症、交通事故、不審者による殺傷事件など様々な災害や被害が増加している社会にあって、学校として生徒の安全を十二分に確保する対策が求められている。警備員による校内見回り、防犯カメラ・ベルの設置、関係機関への通報システムの整備などにより不審者対策を行っている。新型インフルエンザに関しては、関係機関と緊密に連携を取りながら必要な措置を取ってきた。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケートの結果を見ると、防災、不審者対策、交通安全指導については、教職員、保護者、生徒ともある程度の評価が得ているものの、まだ十分ではなく、今後課題を残している。なお感染症対策は、昨年新型インフルエンザ流行に対して、対応策を周知徹底したことと、学年・学校閉鎖措置を取ったことで高い評価が出た。

改善の具体的方策

今後、防災への対策として、避難場所と避難ルートを早急に決定する予定である。
感染症対策は、昨年の経験を生かして今後も適切な対応を取っていく。
不審者対策については、学外者による構内無断立入りをより一層防止するための対策を学院本部と協議していく。
交通安全指導は、登下校の安全確保や生徒の交通安全に対する認識を高める方法を今後、検討する。

【研修（資質向上の取組）】

現状の説明

教科指導に関して、学内での研修は特に設けておらず、また学外の研修への参加も個々の教師の任意としている。教科内での自発的な指導技術の共有に多く頼っている現状である。生徒指導については、発生した問題の情報や対応策などを、教師会や日常の情報交換により細かに共有している。また、特別な支援や指導に必要な心理学的知識などをカウンセラーから全教員が学習する機会を定期的に設けている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

指導力（教科・教科外の両面）の向上を目指して教員が努力しているかを問うアンケート項目に、教員自身は総じてやや否定的に回答している。これは、教員間で教育技術を共有する姿勢が不十分であることに加え、学校内外での様々な研修への参加が困難である現状を示していると解釈できる。保護者からは、教員の資質向上への自己努力に関して比較的高い評価を受けているが、これは教員への「励まし」と捉えるべきであると考えられる。

改善の具体的方策

まず、教育技術を向上させる必要性を自らに認める教員の自覚が強く求められる。その上で教科面では、学内での教科内における指導技術の自発的共有を、より一層、日常化することが必要である。また学外で行われる様々な分野での研修の案内や情報を、これまで以上に全教員に周知徹底して、それらに参加しやすい環境作りに資していく。

【情報提供】

現状の説明

学校説明会に関しては、外部会場での説明会参加に加え、本校独自に年数回実施しており、その際、授業参観や礼拝参加を通して在校生に接する機会を設けている。入学後については、オープンスクール日の設定など特別な授業参観の機会は提供していない。保護者に対して、中学部通信やPTAだより、場合によっては学年・学級だよりなどを通して、学校での生徒の様子などについて積極的な情報提供を行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

学校説明会の有益性については、学校説明会の充実を問うアンケート項目で、肯定的な回答の割合が教員 96%、生徒 70%、保護者 92%と、全てから高い評価を受けた。一方、授業参観については、授業参観の実施について問う項目で、否定的な回答の割合が教員 84%、保護者 70%と満足いく評価を得られなかった。特に、教員の評価は低く、必要性を強く感じながらもハード面の問題等で十分に実施できていない現状が浮き彫りとなった。

情報の積極的な提供については、それを問う項目での肯定的回答が教員 72%、92%、88%、保護者 63%、75%と、ともに概ね良好であると評価されたと考えている。

改善の具体的方策

まず、授業参観実現に向けての問題点を精査することが求められる。保護者による授業参観の意義が、一部教員だけでなく教員全体によって共有される必要があり、本校ではこれまで比較的馴染みがなかったことだけに、教員間での議論を始めることからスタートするべきであるとする。

【キリスト教主義教育の実践】

現状の説明

毎朝の礼拝ならびに聖書科の授業を中心に全学的な教育プログラムとしてキリスト教主義教育を展開している。礼拝では全教員に加え、学外からも多くの奨励者を招き、幅広い主題で講話を聴く機会がある。また、生徒たちが主体的に取り組む生徒礼拝等も定着し、保護者に対してもPTA集会の礼拝や「聖書を学ぶ会」等でキリスト教主義教育に接する機会を設けている。これまで120年間受け継がれてきた建学の精神は、本校の原点であり、目標でもある。

評価・分析（アンケート結果を含む）

キリスト教主義教育についてのアンケート項目で、教職員のみならず生徒や保護者が総じて肯定的に回答しており、その理念が共有できているとの高い評価が出た。またその推進に関しても、三者から概ね好ましい評価を得たと考えている。

改善の具体的方策

現状に満足せず、これからの時代を切り拓くキリスト教主義教育のあり方を検証し、教育を展開していきたい。他の項目より評価が低かった「キリスト教諸団体との連携」に関しては、生徒によるキリスト教諸団体への訪問等の具体的な交流や連携を深めていきたい。

【特色ある教育の実践】

現状の説明

キリスト教主義・読書・英語・体育・芸術を「五本柱」として特色ある教育を展開している。さらに、キリスト教主義に基づき、「人権・平和」のテーマに関しては、日常の授業・礼拝のほか、修学旅行などの校外学習において重点的に取り組む学習機会を提供している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケートでは全ての項目で教職員、保護者、生徒ともに概ね高い評価を得た。特に読書・図書館教育やキャンプ・体験学習については、全国に先駆けて実践し、内容を充実させてきたことへの評価と受け取れる。体育教育に対しても男子校の特色を生かした教育の実践が評価されている。一方、英語・国際理解教育の面でやや評価が低いのは、新型インフルエンザの影響でインド親善訪問旅行が中止されたことの影響も考えられるが、国際理解の重要さや面白さがまだ十分に伝えきれていないと言える。

改善の具体的方策

3年生希望者対象の海外研修旅行として、数年前まで行っていた英語圏へのプログラムを復活させるのか、あるいは従来とは異なった形のプログラムにより異文化への興味付けを図るのかについて今後議論を重ねていく。また、異文化への興味付けのために、外国人教員の協力を得、英語授業担当以外に何が可能か、この点についても様々な方策を探っていきたい。

関西学院中学部 2009年度学校評価 実施項目別アンケート結果一覧表

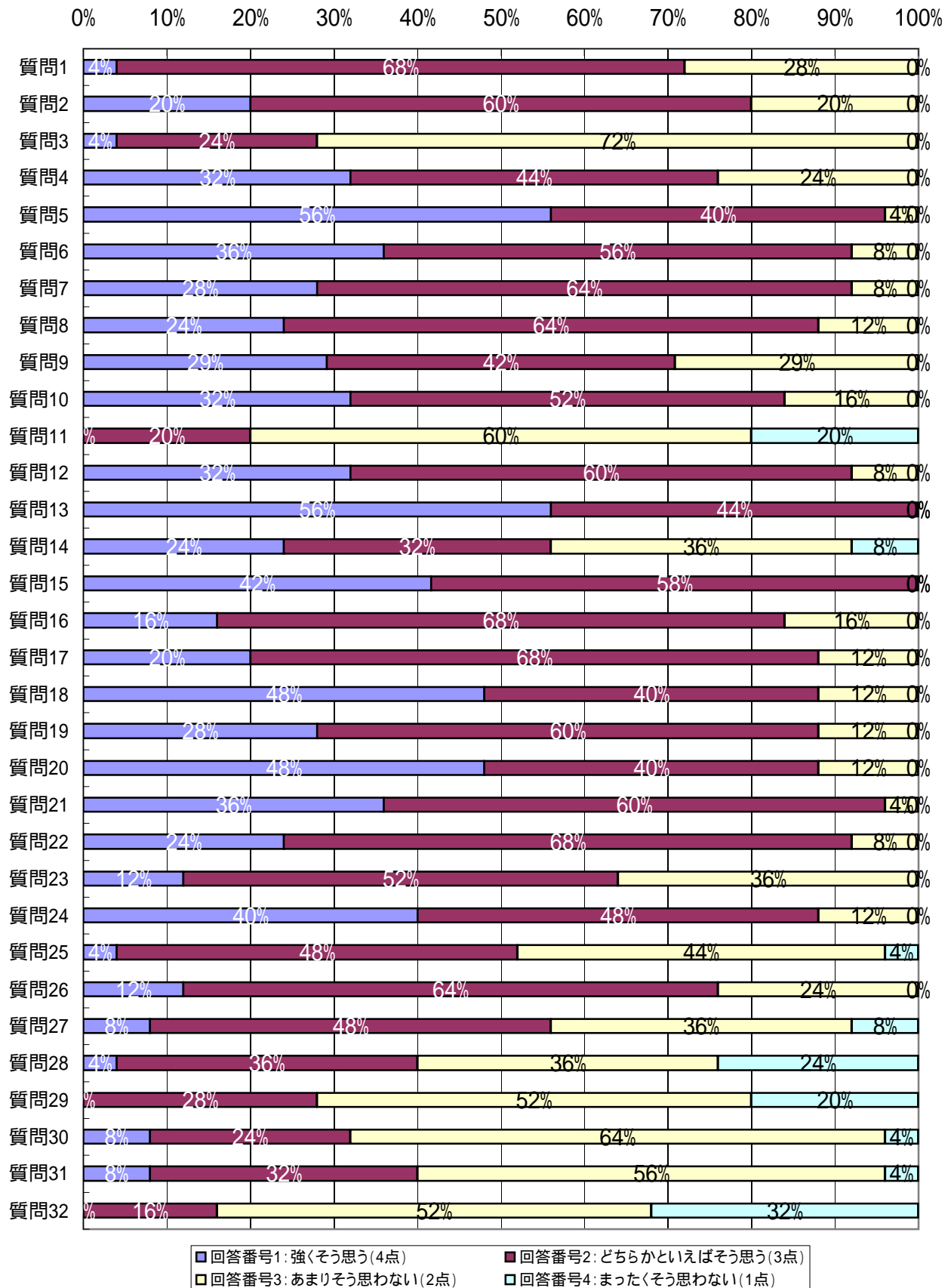
共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
共通	学校全般 (追加項目)					1. 生徒は楽しんで学校に行っている。 2. 中学部の教育に満足している。	3.6 3.3	1. 学校に行くのが楽しい。 2. 中学部の教育に満足している。	3.2 3.1
		教育課程についての教員 間の共通理解と連携	教員による教育課程の全体像の理解	1. 教員は教育課程の全体像を理解している	2.8	3. 学校が提供しているカリキュラム(選択授業を含む)は適切である。	3.2		
	教育課程についての教務部を中心とした教員間の連携		2. 教員は教務部を中心として教育課程の編成や実施について連携を図っている	3.0					
	児童生徒の学力・体力の 的確な把握	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握	3. 教員は外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている	2.3					
		教員による学力評価についての理解向上	4. 教員は生徒の学力・体力評価についての理解向上に努めている	3.1	4. 学校は生徒の学力を適正に評価している。	3.2	3. 学校は自分の学力を正しくつかんでくれている。	2.9	
		教員による体力評価についての理解向上			5. 学校は生徒の体力を適正に評価している。	3.2	4. 学校は自分の体力を正しくつかんでくれている。	3.1	
	各教科の特性に応じた授業の工夫	教員自身による担当教科の特性の理解	5. 教員は自らが担当する教科の特性を理解している	3.5					
		より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究	6. 教員は質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている	3.3	6. 学校は生徒の学力を適正に伸ばしている。	2.9	5. 自分の学力は伸びている。	2.6	
		授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫	7. 教員は授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている	3.2	7. 学校は生徒の体力を適正に伸ばしている。	3.3	6. 授業はさまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。	2.7	
	1. 教育課程・ 学習指導	個々のニーズや興味関心 に応じた授業展開	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開	8. 教員は知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている	3.1				
			学齢に応じた選択授業の展開	9. 学校は学齢に応じた選択授業を展開している	3.0	3. 学校が提供しているカリキュラム(選択授業を含む)は適切である。	3.2	7. 土曜講座は有意義である。	2.7
		補習など特別な学習機会の提供	10. 学校は必要に応じて補習など特別な学習機会を提供している	3.2	8. 学校は補習など特別な学習機会を適切に提供している。	2.7	8. 勉強でつまずいた時、補習などの機会がある。	2.9	
	接続学部との連携	初等部と中学部との連携							
		中学部と高等部との連携	11. 中学部は高等部と適切に連携をはかっている	2.0	9. 学校は関西学院高等部に関する情報を適切に提供している。	2.3			
		高等部と大学との連携							
	課外活動の充実	児童会・生徒会などの自治活動の充実	12. 学校は生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している	3.2	10. 学校は学級活動やクラブ活動を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。	3.2	9. 自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。	2.8	
		クラブ活動など課外活動の充実	13. 中学部はクラブ活動など課外活動が充実している	3.6	11. 学校は充実した課外活動(クラブ活動など)を提供している。	3.1	10. 課外活動(クラブ活動など)が充実している。	3.3	
		課外活動が正課(学習)を妨げないことの徹底	14. 学校は生徒が学業と課外活動を両立できるように配慮している	2.7	12. 学校は生徒が学業とクラブ活動を両立できるような環境の整備に努めている。	3.1	11. 学業とクラブ活動が両立できる環境にある。	3.0	

大項目	小項目	目標	アンケート								
			教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点			
共通	3. 生徒指導	基本的生活習慣の確立	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導	15. 学校は挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーを生徒に身につけさせている	3.4	13. 学校は生徒に基本的社会マナー（挨拶、時間厳守、整理整頓、環境美化など）を身につけさせている。	3.3	12. 学校はあいさつ、時間厳守、整理整頓、環境美化などの基本的社会マナーを身につけさせている。	3.4		
			整理整頓や環境美化の指導	16. 学校は生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている	3.0						
		自主自律の精神の育成	H R（学級活動）における自主自律の精神の育成	17. クラス担任は学級活動において生徒の自主自律の精神の育成に努めている	3.1	14. 学校は生徒の自主自律の精神を育成している。	3.2	9. 自分たちの手でホームルーム、生徒会、自治活動を行っている。	2.8		
			学校行事における班活動などを通して自主自律の精神の育成	18. 教員は学校行事における班活動などを通して生徒の自主自律の精神の育成に努めている	3.4						
			生徒会活動における自主自律の精神の育成								
		問題行動への対応	児童生徒の問題への対応についての教員間での共通理解	19. 生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある	3.2	15. 学校は生徒の問題行動などについて適切に対応している。	2.9	13. 学校は自分たちの行動に問題があれば、適切に対応している。	3.0		
			児童生徒の問題行動の早期発見	20. 教員は生徒の問題行動を早期に発見しようと努めている	3.4						
			問題行動に対しての適切な指導・訓戒	21. 教員は生徒の問題行動に対して適切な指導・訓戒・事後ケアを行っている	3.3						
			教員間・保護者との間での問題行動に関する情報交換・連携	22. 教員は生徒の問題行動などに関して保護者との情報交換・連携を適切に行っている	3.2						
		共通	5. 安全管理	危機管理	災害への対策	23. 学校は防災避難訓練を適切に実施している。	2.8	16. 学校は生徒の安全確保のため防災避難訓練を適切に実施している。	2.7	14. 学校は防災避難訓練を適切に実施している。	2.1
					感染症に対する予防・対策	24. 学校は感染症への予防・対策を適切に行っている。	3.3	17. 学校はインフルエンザ等感染症への予防・対策を適切に行っている。	3.2	15. 学校はインフルエンザ等感染症への予防・対策を適切に行っている。	3.0
					不審者対応についての環境整備	25. 学校は適切な不審者対応マニュアルを作成し、不審者侵入等への防止設備を十分に設置している。	2.5	18. 学校は生徒の安全確保のため不審者侵入に対する防犯ベルや防犯カメラを十分に設置している。	2.6	16. 学校は生徒の安全確保のため不審者侵入に対する防犯ベルや防犯カメラを十分に設置している。	2.8
交通安全管理	交通安全に関する教員間での共通理解		26. 教員は生徒の交通安全に関して共通の理解をしている	2.9							
	交通安全についての指導		27. 教員は生徒に対して適切な交通安全指導を行っている	2.6	19. 学校は生徒に対して適切な交通安全指導を行っている	2.7	17. 学校は生徒に対して適切な交通安全指導を行っている	2.7			
共通	8. 研修（資質向上の取組）	研修の実施	校内研修の実施	28. 進路・教務・生徒指導等学校の諸課題について校内研修が計画的に企画、実施されている	2.2	20. 教員は教育全般に関して自らの資質向上に努めている	3.0				
			外部研修への参加	29. 教員が計画的に校外での各研修会を受けられる体制が整っている	2.1						
		実践的指導力の向上	教員相互の技能共有	30. 教員は教科に関する指導技術を共有するよう努めている	2.4						
			研究授業の実施	31. 教員は教科以外に関する指導技術を共有するよう努めている	2.4						
共通	10. 情報提供	学校の公開	学校説明会（本校開催）の充実	33. 学校は学校説明会を適切に実施している	3.6	21. 保護者にとって、学校説明会は受験時に役立っている。	3.4	18. 受験生にとり学校説明会は受験時に役立っている	2.9		
			授業参観の実施	34. 学校は保護者に対して授業参観の機会を設けている	1.8	22. 保護者が授業を参観する機会が設けられている。	2.2				

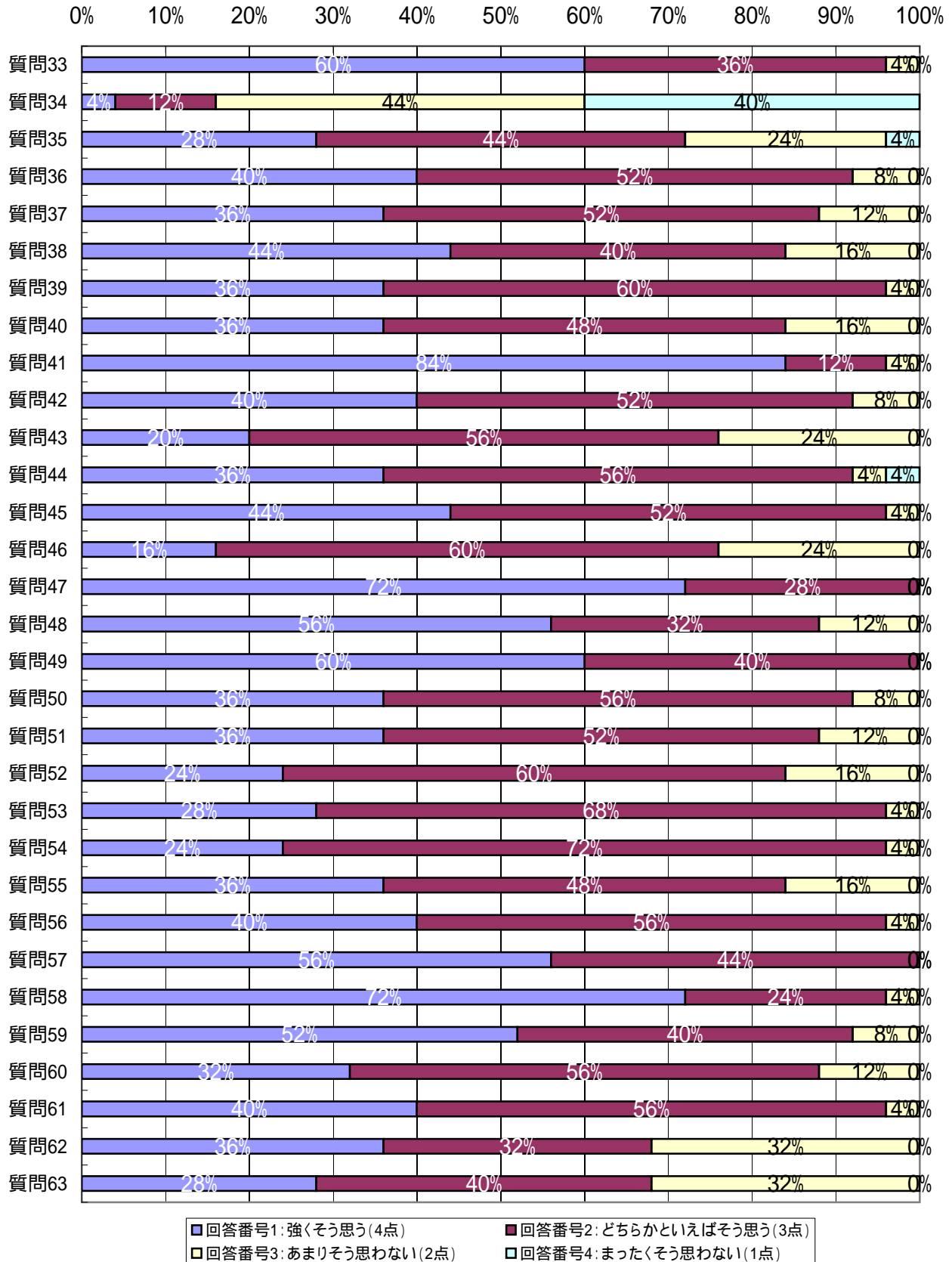
大項目	小項目	目標	アンケート								
			教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点			
共通	10. 情報提供	情報の積極的な提供	学校通信の発行	35. 学校は保護者向けの通信を定期的に発行している	3.0	23. 学校からの通信が定期的に届き、学校の様子がよく分かる。	2.7				
			学校ホームページの積極的な活用	36. 学校はホームページを積極的、かつ適切に活用・管理している	3.3						
			学校自己評価の結果公表	37. 学校は自己評価の結果を適切に公表している	3.2	24. 学校自己評価の結果が適切に公表されている。	2.8				
独自	キリスト教主義教育の実践	キリスト教主義教育の理念の共有	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有	38. 教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している	3.3			19. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。	3.1		
			キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動	39. 教員はキリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動を適切に行っている	3.3						
			教員がキリスト教主義教育への理解を深めることができる環境の整備	40. 学校は教員がキリスト教主義教育への理解を深めることができる環境を整備している	3.2						
		キリスト教主義教育の推進	学校の重要な柱としての礼拝の遵守	41. 学校は礼拝を重要な柱として守っている	3.8	25. 学校はキリスト教主義教育を適切に行っている。	3.5	19. 日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。	3.1		
			生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施	42. 学校は生徒のキリスト教主義的人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している	3.3			20. キリスト教に関する理解が深まっている。	3.0		
			生徒に対する教会出席の奨励	43. 学校は生徒に教会出席を奨励している	3.0						
		キリスト教関係諸団体との連携	教会などキリスト教関係諸団体からの礼拝奨励者の招聘	44. 学校は教会などキリスト教関係諸団体から礼拝の奨励者を招いている	3.2	26. 学校は献金や募金を通してキリスト教主義教育に基づいた奉仕を実践している。	3.4	21. 礼拝では学外の方々からの話を聴くことができる。	3.4		
			教会などのキリスト教関係諸団体を通じての礼拝席上献金の実施	45. 学校は教会などのキリスト教関係諸団体を通じて礼拝席上献金を広く献げている	3.4			22. 礼拝で集められた献金は世の中の困っている人々に広く用いられている	3.2		
			キリスト教諸団体との種々の連携	46. 学校はキリスト教諸団体と種々の連携を図っている	2.9						
独自	特色ある教育の実践	読書・図書館教育	読書生活の推進と実態把握	47. 学校は読書生活の推進と実態把握を適切に行っている	3.7	27. 学校は生徒に読書生活を推進している。	3.5	23. 学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。	3.0		
			図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開	48. 学校は図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動を展開している	3.4	28. 学校は図書館を活用した総合的な学習や行事を展開している。	3.3			24. 読書に関する学校行事が充実している。	3.2
			読書・図書館教育に特化した学校行事の実施	49. 学校は読書・図書館教育に特化した学校行事を実施している	3.6						
		英語・国際理解教育	英語教育を通しての、世界への視野の拡大	50. 学校は英語教育を通して、生徒の関心が世界へ広がるように努めている	3.3	29. 学校は生徒が英語に触れる機会を増やし、英語が好きになる学習活動を展開している。	2.7	25. 将来、英語を使って世界の人々と交流してみたいと思う。	2.6		
			英語教育を通しての、ことばへの意識の向上と言語運用能力の育成	51. 学校は英語教育を通して、生徒のことばへの意識を向上させ言語運用能力を適切に育成している	3.2	30. 学校は英語の文法学習に併せ、読む・書く・聞く・話す、の4技能を高める学習活動を展開している。	2.8	26. 英単語や英文法が身につく、読む・書く・聞く・話す、の様々な活動ができています。	2.6		
			国際理解の感性育成のためのプログラムの実施	52. 学校は国際理解の感性を育成するためのプログラムを適切に実施している	3.1	31. 学校は海外との相互交流や外国人教員を通して、生徒の国際理解の育成に努めている。	2.9	27. 海外との相互交流や外国人教員を通して、異文化に興味をもった。	2.4		
		芸術教育	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成	53. 学校は音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している	3.2	32. 学校は音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している。	2.9	28. 音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。	2.6		
			音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成	54. 学校は音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の自己表現能力を育成している	3.2						
			芸術活動に特化した学校行事の実施	55. 学校は芸術活動に特化した学校行事を適切に実施している	3.2	33. 学校では芸術活動に特化した学校行事（合唱コンクールや美術展など）が充実している。	3.2	29. 学校では合唱コンクールや美術展など芸術関係の行事が充実している	3.2		

大項目	小項目	目標	アンケート						
			教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点	
独自	特色ある教育の実践	体育教育	充実した体育教育による児童生徒の心身の健全な発達	56. 学校は充実した体育教育により生徒の心身の健全な発達を図っている	3.4	34. 学校は体育教育などにより生徒の心身の健全な発達を促している。	3.4	30. 体育の授業などにより心身が鍛えられている。	2.8
			体育に特化した学校行事の実施	57. 学校は体育に特化した学校行事を実施している	3.6	35. 学校では体育に特化した学校行事（体育大会・マラソン大会など）が充実している。	3.4	31. 体育大会やマラソン大会など、体育行事が充実している	3.3
		キャンプ・体験的学習	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施	58. 学校はキャンプ・体験的学習を、教員全員・学校全体で実施している	3.7	36. 学校はキャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。	3.7	32. キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。	3.3
			キャンプ・体験的学習の、定期的な反省・評価による不断の質的向上	59. 学校はキャンプ・体験的学習を、定期的に反省・評価して不断の質的向上を図っている	3.4				
			キャンプ・体験的学習の教育的収穫の、事後的学校生活での継続的活用	60. 学校はキャンプ・体験的学習の教育的収穫を、生徒の事後的学校生活で継続的に活用できるようにしている	3.2	37. キャンプや体験的学習の教育的成果が、その後の生徒の学校生活で活かされている。	3.2	33. キャンプや体験的学習で学んだことを、学校生活で活かしている。	2.7
		人権・平和教育	礼拝や講演会を通じた人権や平和に関する感性と知性の涵養	61. 学校は礼拝や講演会により生徒の人権や平和に関する感性と知性を養っている	3.4	38. 学校は人権や平和に関する生徒の感性と知性を育成している。	3.2	34. 学校生活を通じて人権や平和について学ぶことが多い。	3.0
			HR・授業・行事などを通じた人権や平和を尊重する態度の育成	62. 学校はHR・授業・行事などを通して生徒の人権や平和を尊重する態度を育てている	3.0				
			人権・平和関係諸団体との連携	63. 学校は人権・平和関係諸団体との連携を適切に図っている	3.0				

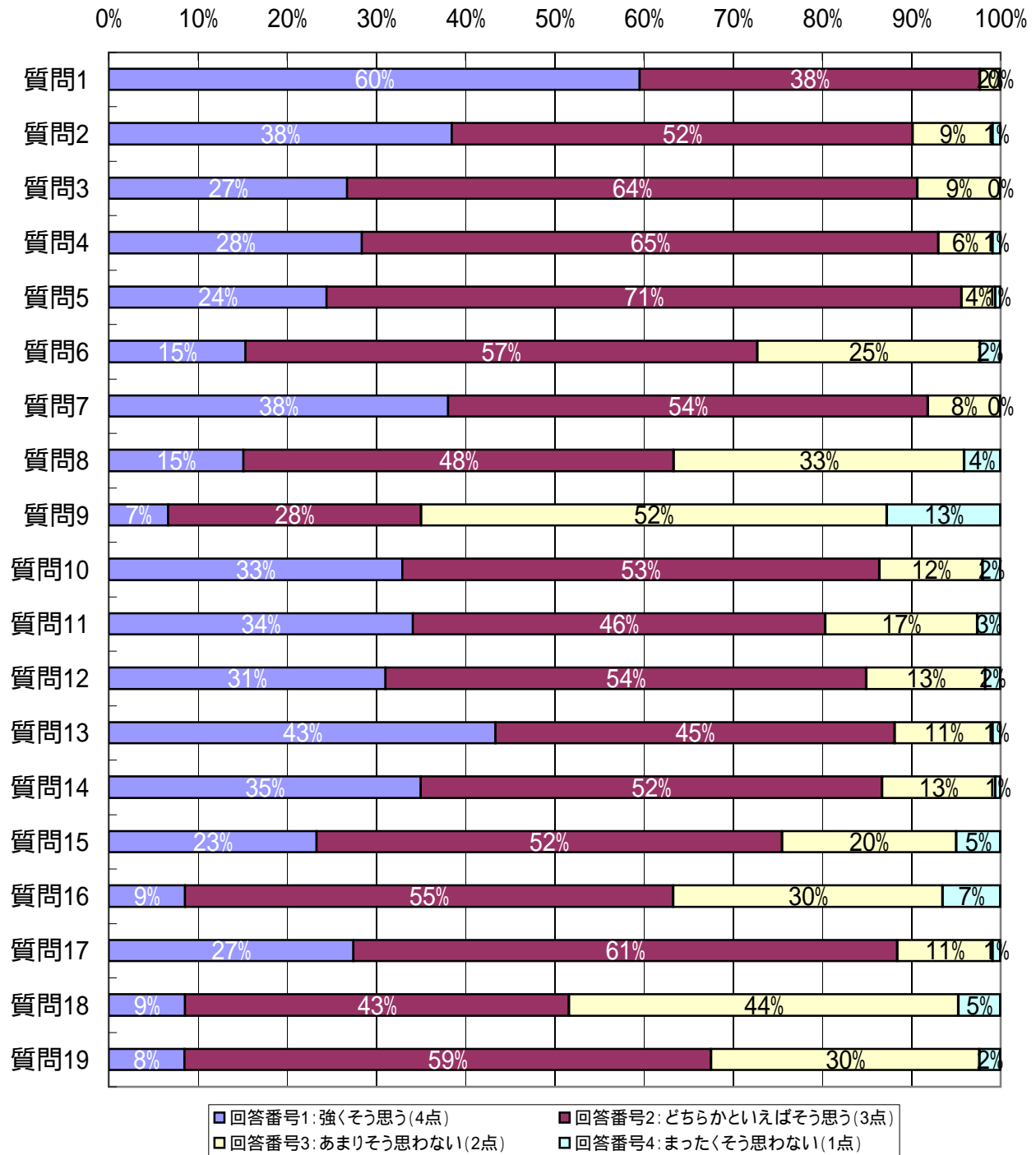
学校評価アンケート集計結果
(中学部・教員 質問1～32)



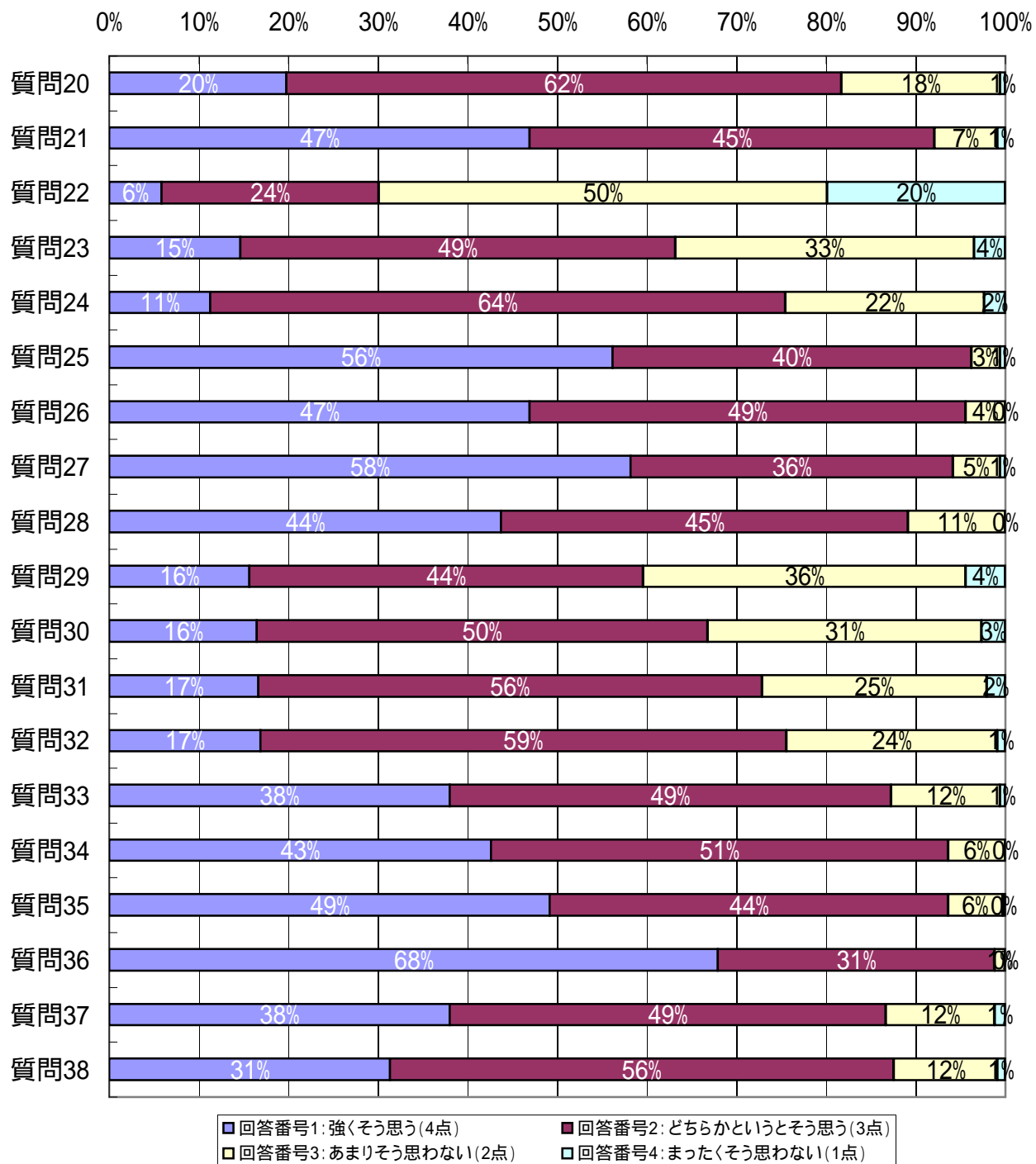
学校評価アンケート集計結果
(中学部・教員 質問33～63)



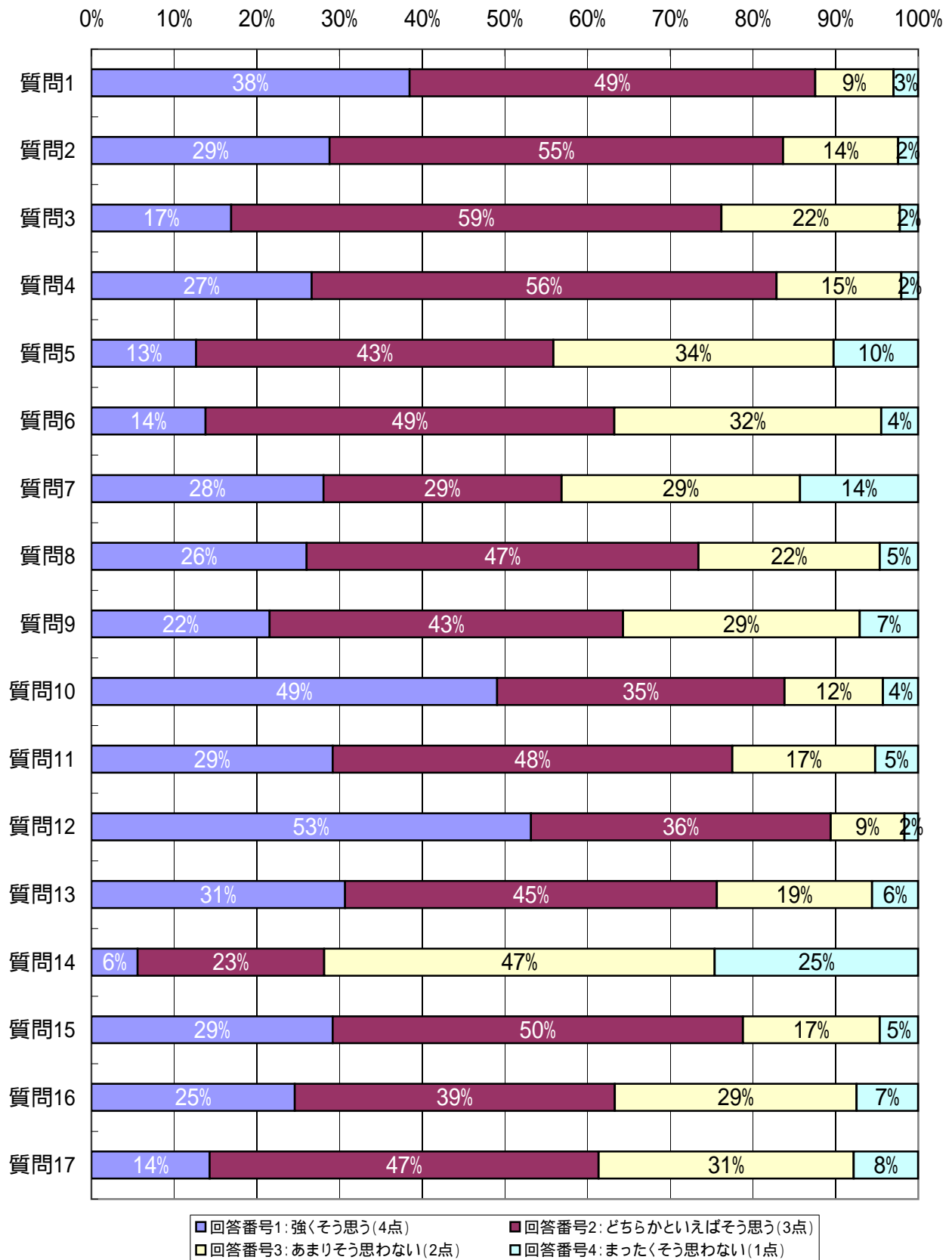
学校評価アンケート集計結果
(中学部・保護者 質問1～19)



学校評価アンケート集計結果
(中学部・保護者 質問20～38)



学校評価アンケート集計結果
(中学部・生徒 質問1～17)



学校評価アンケート集計結果
(中学部・生徒 質問18～34)

